

# 関島寿子個展 Thinking Outside The Basket を観て

大木（陣内）律子

2025年9月19日から10月4日まで、東京日本橋「中長小西」で、関島寿子さんの個展Thinking Outside The Basket が開催されました。会場の「中長小西」はさまざまな情報を遮断したように静かで、集中して鑑賞できる素敵な空間でした。その中で作品の成り立ちに思いを巡らせる幸せな時間を得ました。私もカゴを編む人間なので、作者がどのように考えてつくったかという視点で作品を観ることが多くなってしまうのですが、今回はなるべくそうではなく作品の印象をそのまま受け取ることを心掛けました。一部分の作品についてではありますが、読んでみていただければ幸いです。

「なわの記録 V」 2012 ヤナギ、蟻引き麻紐  
28.5×12.5×30.0 c m



入ってすぐ目に飛び込んできたのは、作品の中央の暗い空間の存在です。手を尽くされたであろう縄ではなく、トンネルのような暗くて深い空間を抱える佇まいに惹かれたのです。  
縄を縄って、縄って、縄って。けれど組むとか編

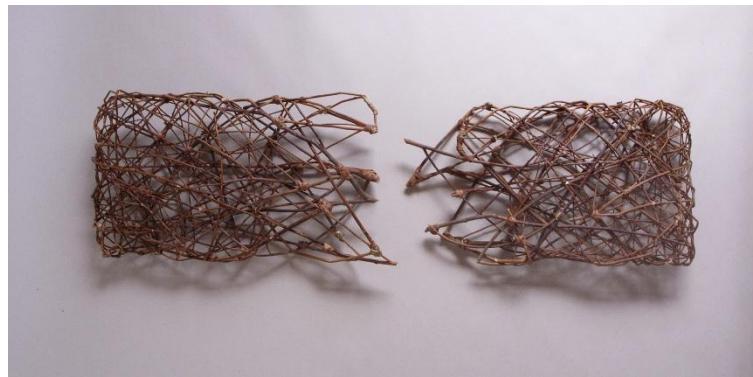
むとかはせずに作品化されているということは以前から知っていましたが、縄がない場所にフワリと「暗い空間を保って」在るということを今回強く意識させられました。

「立体的円曲 I」 2023 オカメザサ、ヤマ  
ブドウ 52.5×11.0×41.8 c m



自転車のスポークのように軽く金属的。薄緑に光っています。それでも確かに植物、オカメザサなのです。後で解説を読めば、オカメザサを絡めた円とその接線という要素で構成されているということのようでした。幾何学的な形態であると同時に、オカメザサの性質からか、外への弾力を内包し、金属的、機械的で、スピード感のある動きさえ感じます。私は若々しいこの作品が好きでした。

「反発の和 虚」 2024 ヤナギ、エノキ  
55.5×33.2×7.5 c m



太いものから細いものへ、固い部分から柔らかい枝先へと植物が育つように左右へ向かって組まれています。四角い全体形の中に収められているため、太い部分ではより強い弾を感じさせ、細い部分では弾力は弱めに見えます。力の方向はそれぞれが中央から左と右に向かっているように見えます。そして中央部に目を向ければ二つの物体の間には距離がとられ、左右に向かう力の方向性があやふやになるような気がして、観ている私は少し混乱します。けれど全体をもう一度見れば、力のつながりは切れておらずに依然繋がっていてホッとするのです。隙間も材料として組まれていることを意識させられる作品です。

「白い曲線」2024 クルミ、エノキ

78.5×53.5×8.0 c m



型に沿わせて、結びながらつくったことは分かりましたが、その後なんらかの方法で型を抜かなければならない。実用的な籠なら、型を入れる袋のように底面と側面を編んで、型を抜き、上部に蓋をするように編むというふうに考えられます。

作品は大胆にも出来上がった長方形のカゴが中央で真っ二つに割れるように手順を設計、真っ二つに割れた部分を白いエノキで再構築しています。解説には、ダミー部分を白いエノキに

置き換えたとさりげなく書いてあります。その行為（手順）自体を素知らぬ顔で「白い曲線」と名付け、作品のテーマにしてしまうところ、そういうものの考え方が好きでたまりません。

「束の束 II」2025 エノキ

25.3×15.4×12.0 c m



実用的には、散らかっているものを1つにまとめることが束にするということだと思います。束にするための紐なり、バンドなりが散らかった素材を支配する立場。散らかっていた素材は支配されてキチンと大人しくなる。この作品では素材の在り方が逆転しかかっているように見えます。はみ出た両端、一旦はまとめられて束になったものたちが、絡み合いながら、増殖（増えてはいないかもしれないが）して、立場の逆転を図っている。もう少ししたら、巻きの部分は遺跡の埋蔵物のようになってしまうかもしれません。

私は関島寿子さんのバスケタリーの講座を受けて以来、カゴづくりの面白さにハマってしまった人間の一人です。講座では「たった一つのアイデアを作品に」（言葉は違ったかもしれません）ということを教えていただきました。しかし、関島さんの作品を見続けていると、確かに一つのことをテーマにしているのだけれど、それとは別に

何か一味違うスペースが効いているような気がしてしまったのでした。

しかし今回の展覧会で私が得た気づきは次のようなものです。

自分が「アイデアとは技術的なもの」とどうやら決めつけていたらしいこと、関島さんが言う「1つのアイデア」とは「気づきをどのように、視覚化するかという1つのアイデア」のことだったのでないかということ。というのが今回の展覧会で得た私の収穫です。作品の印象をそのまま受け取るなどと言いつつ、またもや自分の話になりました。ご容赦ください。いつもいつも気づきを与えてくださる関島先生と作品たちに感謝です。ありがとうございました。

2025/10/10

大木（陣内）律子

参考：SEKIJIMA HISAKO Thinking Outside the Basket © 2025 NAKACHO KONISHI Co.,LTD

写真提供:関島寿子